

高校での心療相談について

実態調査より

平川 清人 甲斐 佳美 西村 良二

福岡大学医学部精神医学教室

要旨：今回筆者は県の教育庁と県の医師会が連携し実施している高校生の健康教育推進事業の一環である心療相談について後方視的に調査を行った。対象は2002年度より2006年度までに心療相談を受けた生徒59名であり、以下のような結果を得た。1. 心療相談の件数は年間約11.8件であり、1年生が28件（47%）と最も多く、学年があがるにつれ減少した。性差に関しては男子26件、女子33件であった。2. 心療相談を受けた相談者の内訳は、保護者が35件と最も多く、次いで生徒自身が29件であった。3. 心療相談へ至った経緯は保護者の希望が22件と最も多く、生徒自身の希望は11件と最も少なかった。4. 相談内容の内訳は精神症状に関するものが49件と最も多く、次いで身体症状に関するものが36件と多かった。これらの症状はどの学年においても出現頻度が高かった。5. 心療相談後の経過は、生徒自身の変化が34件と最も多く、次いで養護教諭の変化が31件であった。6. 心療相談は悩みを抱えた子どもだけへの援助ではなく、育児や指導に悩みを抱えた親や学校関係者への支援という意味合いをもち、また精神疾患を抱えた子どもの早期発見の場にもなっているといえよう。

キーワード：学校精神保健，心療相談，思春期精神医学，早期発見，養護教諭